

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成18年2月16日(2006.2.16)

【公開番号】特開2005-26204(P2005-26204A)

【公開日】平成17年1月27日(2005.1.27)

【年通号数】公開・登録公報2005-004

【出願番号】特願2004-4350(P2004-4350)

【国際特許分類】

H 05 B 6/12 (2006.01)

H 05 B 6/36 (2006.01)

【F I】

H 05 B 6/12 3 0 8

H 05 B 6/12 3 0 3

H 05 B 6/36 E

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月21日(2005.12.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被加熱物を載置する矩形状のトッププレートを有する筐体に、2つの加熱コイルが内装された誘導加熱調理器において、該加熱コイルは、互いに直交する長軸と短軸とを有する扁平形状に形成されて、トッププレートの長手方向に沿って並べられ、各加熱コイルの短軸が略同一直線上に位置し、加熱コイルの長軸が筐体の長手方向を四等分する等分線のうち外側の等分線より外側に位置し、加熱コイルの短軸を利用して2つの加熱コイル相互間を広げたことを特徴とする誘導加熱調理器。

【請求項2】

前記トッププレートの長辺の長さが、加熱コイルの中心間距離の2倍以上になるように設定されたことを特徴とする請求項1記載の誘導加熱調理器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記目的を達成するために、本発明は、被加熱物を載置する矩形状のトッププレートを有する筐体に、2つの加熱コイルが内装された誘導加熱調理器において、該加熱コイルは、互いに直交する長軸と短軸とを有する扁平形状に形成されて、トッププレートの長手方向に沿って並べられ、各加熱コイルの短軸が略同一直線上に位置し、加熱コイルの長軸が筐体の長手方向を四等分する等分線のうち外側の等分線より外側に位置し、加熱コイルの短軸を利用して2つの加熱コイル相互間を広げたことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、トッププレートの長辺の長さが、加熱コイルの中心間距離の2倍以上になるよう<sup>2</sup>に設定されたことを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

上記構成によると、トッププレートの長辺の長さは、両加熱コイル間の中心間距離の2倍以上の長さで形成するので、被加熱物を置く位置がトッププレートの外周からはみ出しがない。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】削除

【補正の内容】